

月見の宴・参加者

マ…マイカー □人乗り

先発隊 (小立野キャンパス午前9時発)

13期 辰野 隆義 マ7 13期 吉田 穂積 マ7 13期 吉本 良治 マ4
 13期 柴田 茂樹 マ 13期 柴田 訓子 マ 15期 佐野 哲雄(同乗)
 15期 松林 知一(同乗) 15期 上馬 康生 マ4

本隊 (小立野キャンパス午後1時40分発)

×とJR…車なし

(地域) 無しは金沢市・松任市在住

名前…24日の登山希望

顧問 前田 達男	×	
1期 仙田 厚太郎 (高岡)	マ4	3期 田村 昭夫 (福島) JR12:55
3期 小林 宜泰		7期 村田 泰恵 マ
8期 穴田 昭一 (小松)	マ4	9期 平村 耕作 (滋賀) JR12時
9期 吉田 幸造 (滋賀) JR11時		11期 小山 清 (高岡) ×
14期 清家 雅幸 (埼玉) JR午前		15期 舟田 節子 ×
15期 坂尻 忠秀 (穴水)	マ8	18期 椿川 利弘 マ4
18期 横井 恒雄 (大阪) JR11:59		19期 梶 典雅 マ4
20期 久富 象二 マ2		23期 鳥越 伸博 マ4
23期 小久保光将 (高岡) マ4		25期 辻村 善徳 マ4
29期 渋谷 敏行 マ2		31期 石倉 昭彦 マ
31期 水腰千佳子 ×		36期 石川 明弘 ×
36期 沢田 哲之 ×		36期 金井 一人 ×
36期 田中 充 ×		

25期 広田 秀和…集合場所を角間キャンパスと間違え、参加できず

29期 北村 智明・高木 美保…23日のみの日帰り

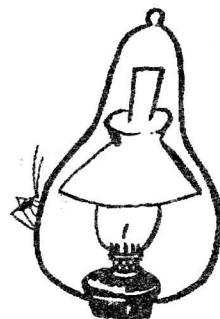
33期 奥出 俊一…22日に入山。23日に登頂、先に下山。

当日の係

受付・会費徴収…鳥越、舟田 企画・配車…梶 記念写真・追悼式…上馬
 懇親会進行…久富 高三郎登山隊長…椿川 慰心碑補修C…辰野

借用・手配

テント…梶 (いぬわし) 舟田 (ナカオ) 鳥越 (北国銀)
 トランシーバー・ランタン…梶 (いぬわし) カメラ…上馬
 ローソク、名札、歌集コピー、花束、貸出シュラフ…舟田
 工学部駐車の手配…前田顧問 尾川ダム駐車の手配…椿川
 参加者へ案内送付…舟田 高三郎登山者へ連絡…椿川
 現役へ買い出し金受け渡し…鳥越



宴の記

15期 舟田 節子

日程が決定した時には、当日は月齢2日あたりと判明する。月見…まあ、芸達者の多いワングルのこと代役に不足することはあるまい（すみません）。そしてまたも、台風が迫ってしまう。小屋があり、コースも東寄りだからと決行する。雨対策に大判ビニールシートを運んでいってもらってあるが、風雨となるとさて…。

23日。台風接近のフェーン現象で汗ばむような陽気。愁心碑補修の先発隊（13期 辰野、吉田、吉本、柴田夫妻 15期 上馬 佐野 松林）の8名は午前9時に出発。11時過ぎ、現役4回生の山本さんから電話。「ビールの受け渡しをする奴が、工学部へ行ったがOBが来ていない…といって僕の所へ電話が来ていますが…」。時刻の勘違いがあったことが判明。このビール2ケースは、結局正午発の4回生の彼等が運んでいき、倉谷川で冷やされて出番を待っていた。

坂尻さんの車で小立野キャンパスへ向かう。途中で14期の清家さんを拾う。彼は「金沢も変わったな」と歩いていたそう…こちらは、彼の町並を歩く後ろ姿に20年前かずっと戻ってきたような錯覚を覚えた。

工学部前にはすでに梶さんが待機していた。あたりは飾り立てた太鼓が並び、やたら騒がしい。尾山祭の集合場所にもなっていたのだ。続々…というより、ちらほらとOBが現れる。一昨年OB総会を開催し、記念写真も撮っているの、で、まずまずお顔は分かり、そこそこ話もはずんでいるようだ。

祭の挨拶の終わった山出金沢市長が、わざわざ車を降りて声をかけていかれるといったハプニングもあったが、梶さんの指示で便乗の車も決まり、出発する。25期の広田さんが現れず、鳥越さんの車がもう少し待つことになる。舗装道路や新しいトンネルに驚き、昔はどうのと言っているうちに、犀川ダムがせまる。高三郎もさっそく歓迎してくれる。



ダムの前で記念写真を撮り、BHへ向かう。舟付場までブルカ軌充した跡があり、この春ここが桂さんの倒れた場所と確認しておいた石積みも、あっけなく竊模様の下になっていた。すでに現役が通り、先発隊も通っていることから、道はまずまず。肩先くらいに茂っている所もあるが道は何とか判別できる。

19期高桑さんの碑の前で休憩。さっそく3期田村さんが正信偈をあげようとするが、本人も怪しく誰も唱和できない。それなら…と彼はザックから聖書(!)を引っ張り出し、ドイツ語で読み始める。もう、笑ってしまい、本当にワングルらしくて、何よりの供養になったように思えた。トランシーバーで、やはり広田さんは現れず、待機組もダムから歩き始めている旨連絡が入る。(下山後、本人からの電話で、角間キャンパスを集合場所と間違えてうろうろしていたことが判明。お気の毒で、「会費は不用」と言ったのに、「では寄付として」と三千元が振り込まれてきた。)

雨が落ち始める。この雨に急かされたか、一刻も早くBHを見たいからか、とにかくハイペース。山現役の私も必死で走り、ワングルOBの底知れぬ脚力を舌を巻く(たぶん一意地の張り合い)。後半の方が難所のはずだったが、出島からはきれいに草が刈ってあった。「さすが現役!」と感謝したのだが、実態は一キノコ取

りがボートで出島まで入ってきて刈っていくらしいとのこと。

ついに吊橋を渡り、倉谷に入る。廃屋が朽ち果ててからも久しく、石垣のみが残る平地である。ここで馬白君をだっこした29期北村・高木夫妻とすれ違う。天候があやしく、日帰りにするとのこと。同じ29期の渋谷さんも帰ろうとしていたが、石倉さんの顔を見て引き返してきた。

そこへ金髪のミリアムさんも混じった一行が歩いてくる。疲れた表情の彼等に聞くと、セメントに混ぜる砂利を「また」掘りに行くのだそうだ。やっぱり負担をかけてしまうが、「お世話になります」と最後の登りにかかる。

小屋の横では、先発隊が慰心碑を囲んでいる。最後の上部の台形の角度を検討しているようだ。柴田夫人によれば「あの時はねえ、もう疲れちゃってたらやらってたんだけど、本隊が上がってきたから、慌てて気合を入れてまたセメントをこねたわよ。」とのことだった。（詳しくは補修CLの辰野さんの原稿にお任せする。）BHを前に、13期、15期が並んでいると25年の歳月が過ぎたことが信じられない。皆さんにも懐かしさととまどいが入り交じっているようだった。

天候はいいかわらず怪しい。小屋で食当を始めてもらう。下で酒宴をやると、この急坂をお開き後に上がってこれるものやら？行方不明になって倉谷の怪談に加わる方が出てしまうかもしれない。梶さん、椿川さんがBH横の沢への道を開いてくれ、そこが氷場、途中はトイレとなる。その道の横にはかつてのトイレの残材が朽ちていた。（壊れたカマドの煉瓦の方は、今回慰心碑の骨材に利用された。）明るいうちにと記念写真にかかる。上馬さんに広角レンズを用意してもらい、カメラの1.5m前から広がる。現役も含めて70余名、何とか収まった。

続いて追悼。桂さんと同じパーティーだった上馬さんがあの時の状況を説明し、その後皆で黙祷する。（やはり同じパーティーだった横井さんは、この8月帰省中に木曽川で水死してしまった。この月見の宴は彼の49日と重なっていて、15期には万感こもる黙祷だった。）

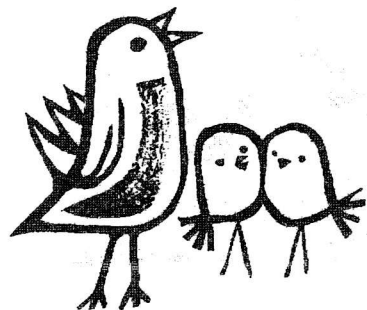
テント設営にかかる。私が借りてきたテントは備品の数を確かめてきただけ。（広げてはみたのだが、何しろ社会人になると、ますます女は食当、男は設営に分業されてしまう。一律に教えてもらえるワンゲルはホントにありがたい所なのだ。一人で無理してボールを折りでもし



たら…と、本の図解だけ眺めてフムフム) 案の定、ジョイントの角度が不明。テントを使っている樫さんや、18期横井さんも判らないというし、現役を引っ張ってきて聞いても型が違って判らないという…。弱りきったが、ボールの組み合わせをあれこれやって、結局かなりの力を加えてボールを反らせると嵌められると判った。それでも、最後のボールが押し込むべき穴に嵌まらず、石はないか? ベンチはないか? この難題に最後まで取り組んで下さったのが前田顧問で、私は二重に恐縮するはめになった。(それにボールも結局1本折ってしまったのだ。) 他の2つのテントも張られたが、始めてドームテントを見たOBは簡便なのにびっくりしていたようだ。

大判ブルーシートを2枚広げ、宴を開始。1期仙田さんの挨拶で乾杯。久富さんの周到な進行計画により宴はスムーズに一名前を読み上げて挨拶だけしてもらはうが楽しい一言、二言が次々と続き、予定どおり盛り上がっていく。マイクの奪い合いならぬ、「是非この機会にお知らせしておきたい」話が次々に出てきて、特に1期仙田さんと3期田村さんは、座を暖める暇もないくらい。私は記念誌の編集長で昔のBHは隅々まで読んだ方だが、百聞一見にしかずというか、やはり当事者の口から直接語られる迫力は格別。天候の方は雨がバラついたかと思うとまた止んで、星空が広がっていく。こんな倉谷の夜を楽しめるのは金大ワングелしかない。

おでんを空にし、笹寿司が廻り、アルコールは、ビール、日本酒、ワイン、水割がチャンボン…さあ、歌え、歌えとワングелソングが出てくる。何期の持ち歌、とやりだすと、それはこ



っちが先で、こっちが正調と歌い出す期もあり…。そのうち、あれ、現役は歌わないの? ええ知りません。じゃあ、夜はテントで何やってるの? ハハ、まあその…(そのうち聞いてみて下さい。きっとカラオケなんかはパフォーマンス付きで上手いだろうとおもいます。) それでも現役も歌え、歌えて、代表〇君がドスのきいた声で「兄弟舟」を歌う。そして是非是非と請われたミリアムさんが、アイルランドの歌を歌う。この時、田村先輩は実に幸せそうであった。

一応お開きとし、台風接近対策に明日の予定を全て一時間早めることにして、現役達は下へ降りて行く。お酒もおつまみもたっぷり抱えて、彼等もその後二次会を楽しんだらしい…。残るOBは朝からの重労働に眠り出す人や、四十周年のドイツ行きを発案する人や、いくつかの話の輪に分かれて、さらにアルコールが進む。私の方は、18期横井さん、20期久富さん、25期辻村さんと、「ワングелとは?」などという青い話題を、昔の続きのようにやっていた。時代を共有しなかったOB同士でも一緒に語り合える…この場所だからすんなりやれることのようにも思えた。「ワングелとは、自然を愛し…ではない。その前に、まず人を愛しなのだ」で「異議なし!」となり、浮世のことはきれいに忘れて、ワングел万歳で、テントにもぐりこむことにした。

それにしても何という宴の跡…

「いやあ、はでにやったね。」

「明日これを見たら現役はキレますよ。」

「しゃあない。明日早く起きて一緒に片づけよう。」OB1年の石川さんと約してお休み。

24日。雨は夜中に少しバラついた程度。ねぼけ眼で片づけにかかる。空罐は8期穴田さんが、学校で集めているからと、まとめていかれる。どうやら皆も起きてきて、現役が上がってきた頃には片づいた。

愁心碑の木枠を外す。うまく固まっている。化粧塗を施す。もう一つついていたパネル(建

立の由来を記したもの)は見つからず、新たに作ってとりつけることにする。聞いてみると、25期の頃にはもうなくなっていたらしく、36期になると、何の碑なのかも知らなかったとのこと。私達にした所で四半世紀、何もできなかった。自己満足の次元のことかもしれないが桂さんの御実家へは追悼したことをお伝えしておきたい。

テントを撤収し、朝食におじやをいただいて、OBは先に引き上げる。ダムに着き、解散の挨拶をして車に分乗した時には大粒の雨が降り出した。(現役達の方は30分後になった程度と聞いた。)

ここで終わりにすればいいのに一掃りの車の中での話。3期小林さんの今の趣味は、シュノーケルと足ヒレと救命具をつけてダム湖を泳ぐことなのだそう。オレンジ色では目立つので迷彩色のを装着し、ボートの人が見たらびっくりするだろうからと、慌てて流木の陰に隠れたり気も使うとのこと。オロロが来るから湖の真中を泳ぎ、あがる時は彼等の活動が静まる夕方まで待つが、それでも襲われて服を着るまでがたいへんなのだそう。今でも、山道の奥まで行きたくなり、通行止めの標識をずらして入り込ん

で行くそう…。ちなみに彼は金大ワングルの遭難第一号。これを笑って聞いていらした、捜索隊長第一号の仙田さんは、またの出番の予感におののかれていたように一思われたのでした。

反省会(といっても懇親会ついで)では「連れのいたOBはいいか手持ち無沙汰で淋しそうなOBもいた。お客さんということでなく、仕事を割り当てたり、現役と同じパーティーに入ってもらって、一緒に食当をしてもらってもよかったのでは」

「もっと現役に負担をかけない形を考えたら」「事故には余り萎縮してほしくない。本来自分の体は自分で守るべき。しかし<苦しい>が言えるクラブにはすべき、それは大事にしてほしい。」

の意見が出ました。他は、参加者の返信をご覧ください。

忘れ物 ゴアテックスのカップ上下

(ダンロップ製 青色 M寸)をお預かりしています。心当たりの方、事務局へご連絡下さい。



会計報告は、OB会会計報告の方に掲載してあります。ベルクハイム修復と愁心碑補修を同時に行ったことや、会費は飲食費相当としたため、69,876円の赤字が出ております。以上のベルクハイム修復、愁心碑補修、月見の宴を、全OBにご協力いただいたと解釈して、OB会会計よりの援助として処理致しました。ご了承下さい。

愁心の碑に寄せて

13期 辰野 隆義

OB会報「やまざと」3号が届き、パラパラとページをめくっていると、突然自分の名前が目飛び込んできました。

「…愁心碑を補修・除幕(?)します。この補修構想は13期辰野さんが練り…」寝耳に水の私は、さっそく会長の大島君に電話を入れました。その結果は

「悪い、悪い。言うの忘れとった。」の一言。

(編者注;辰野さんに依頼することは、昨年10月末の懇親会にて、「辰野に頼んどくワ」の彼の一言で決まっておりました。続く6月現役との打ち合わせの際も明言していただきました。それでもこうなってしまうのが、いかにもワンゲル的で、それでもやれてしまうのが、これまたワンゲルのスゴイところだと思われるのです。)

準備期間はもう一ヶ月を切っている。あわててイメージスケッチ、資材の手配、型枠の製作と、どうにか間に合わせることができました。

本番では現役の方々に重いセメント袋や砂、

砂利などを運び上げてもらい、本当に感謝しています。(編者注;セメント重量から割り出すと、500kg 近い荷揚げをしてもらったようです)そのお礼の意を込めて、作業に携わってもらった人達全員の名前を書いた木板を基礎の中に埋めました。

愁心の碑の経緯については、他のOBの方がきっと書いてくれると思いますので、碑のプレートについて書くことにします。

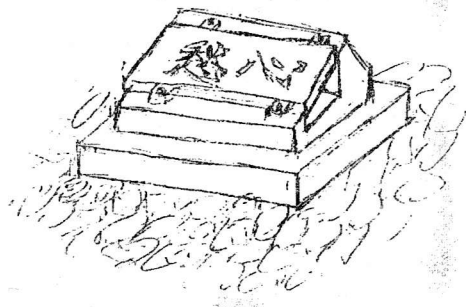
「愁心」は当時顧問をしていただいた松尾先生に題詞を、また教育学部の米林先生に製作をお願いしました。そのプレートを今回も使い、碑自体は前回の木製の物とは違い、かなりしっかりした物となりました。もしベルクハイムに行く機会がありましたら、見て下さい。また、現役の方々は、この碑を見たら自分の山行を振り返り、安全な山行を心掛けていただければ幸いです。

最後になりましたが、桂君の冥福を心からお祈り申し上げます。

由来を説明したパネルの方は紛失しており後日製作、取りつけることにしています。

愁心

「昭和四十五年五月三十一日に行われた新人トレーニング中、ダム湖畔にて突然の心臓発作に襲われ、永遠に帰らぬ人となった故桂 茂樹君に捧ぐ。」

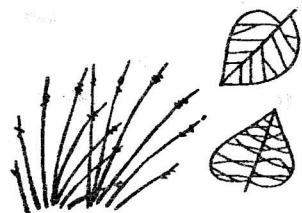


倒れていた山小屋の「愁心の碑」が再建された。その前で、月見の宴に参加の多くの人たちと共に黙祷していると、今から25年前のことが思い出されるのであった。大学に入ってから2か月足らずしかたっていない5月の終わりに、それは突如として起こったのである。同じ新トレのメンバーであり、また同じ理学部のクラスであったこともあり、桂氏の死はその後の私のなかになかなか深く残るものとなった。ことば数は多くはないが穏やか口調で話していた顔。城内の部室から一緒に卯辰山まで走り、相撲場の階段をお互いに背負いながらトレーニングに汗を流した時の顔。そして新トレの山道で、休憩の時に何か言葉を交わしている紺の山シャツ姿の顔など、今でも頭の中に残っている。

その後、倉谷や高三郎山には何度も入った。残雪の山道にイワウチワやカタクリの咲いていた春。草いきれの倉谷廃屋でイヨシロオビアブの大群にまわりつかれた夏。紅葉の見事な山頂から、澄んだ青空にくっきり映える白山や北アルプスを眺めた秋。トタン屋根を藪が叩く小屋の中で、あかりに集まるクサギカメムシを見ていた冬、等等。小屋作業やバーワン、そして4年生から大学院にかけての4年間は鳥類の研究のため、多いときは月に4回も高三郎山のきつい山道を一人で歩いた。社会へ出てからも何度か入山してきた。山へ入るたびに、犀川ダムの途中の石積みの前（桂氏の倒れた場所…今は草に埋もれて分からなくなっている）で、そして山小屋の「愁心の碑」の前で、黙祷しながら彼に私の日常のことなどいろいろ聞いてもらっていた。そして彼の分まで生きなければと自分に言い聞かせていた。

誰だって必ずいつかは、この世に別れを告げなければならないときが訪れるのである。この年にして、同世代の身近な人との別れをいくつも経験してきたが、そのたびに自分の生き方の反省と新たな決意を思いつかされてきたように思う。

「愁心の碑」は、私にとっては学生時代を思い出させるものであり、日頃の生活や山に対する姿勢を考えさせてくれるものである。加えてこれからは、25才も違うワングルの後輩と一緒に作業をして再建したことを思い出させてくれるものである。これからはできれば年に一度くらいは訪ねて行かねばと思っている。



月見の宴参加者からのお便り

(受け取り順)

*3期 田村 昭夫

拝啓。写真有り難うございました。

決してアップに耐えられそうにない我々が最前列にあることが、皆様をワングルから足を遠ざけるのではないかと反省されます。私が欠席することによって多数のOBが出席されるなら、喜んで欠席いたしましょう。

それにしてもワングルにしかアイデンティテ

ィーを持たない人間も多いことを知り、安心しました。

金大ワングルは永遠です。

敬具

*23期 小久保 光将

お月見とはいきませんでしたが、BH隣での酒宴は楽しかったです。40歳近い開きを気にさ

せない活気はワングルならではのものと感じ入

りました。

それにしても草創期の先輩方のパワーには、お会いするたび恐れ入ってしまいます。

別の機会があればまた参加したいと思っています。

事務局各位、現役の皆様には、格別のお世話をいただきありがとうございました。

*9期 吉田 幸造

先日は現役の人の多いのにあらためて感動したのと、僕等の時にあれだけのOB会支援ができたかどうかと感謝する次第です。

気分よく久しぶりに無茶飲みをし、若い頃の体験がよみがえりましたが、回復が遅く苦労しました。

大学2年の娘が居ますが、KUWV現役のための垢を煎じて飲ませたい感じです。

今後共よろしく願ひ致します。



*36期 石川 明弘

最近めっきり山行回数が減少していた中で、今回の飲み会は山行ではないにしろ、ワンゲルの雰囲気とでもいうのでしょうか、個人的には石倉さんに会えたので良かったです。

雨がいつ降るかという状況もツキがあったのでしょうか、何なくクリアして良かったです。これも役員の日頃の行いのよさなのでしょう。

今回は40周年ですね。その時は就職しているはずなので、お金をたんまりもって、同期の奴等と朝まで飲んで、それからお酒の匂いをブンブンさせて40周年へのりこみたく思います。

*8期 穴田 昭一

30年という長い歳月の経過を忘れて、KUWV現役時代のような楽しい、懐かしいひとときを過ごさせてもらいました。

現役部員の皆さんとOB会事務局の皆さんの後苦労は大変だったと思いますが、皆さんのお世話のおかげで、久しぶりにわが青春時代のホームグラウンドを訪れることができ、本当にありがたく思いました。

初代ベルクハイム建設時に、熊笹の根を掘り河原から石を運び上げ、倉谷の廃屋から材木を運んだりなどの肉体労働を提供した者の一人として、ベルクハイム再建後、この催しがあるとお知らせを受け、喜んで参加させてもらうことにしました。

残念ながら8期の参加は私だけでしたが、7期の村田さん、そして遠方から参加してくれた9期の平村、吉田両氏、11期の小山氏らと旧交をあたためることができ、本当によかったです。また、田村氏を初めとする創部当時の大先輩達の老いて（失礼！）ますますエネルギーあふれる姿に接し、「我々もがんばらにゃ」と思いました。

5-11期のなつかしい皆さん、次の機会には是非参加しましょう。四十万さん、吉村さん、ナベちゃん、博道くん、皆さん、待ってますよ。

*13期 吉本 良治

犀川ダムまでの快適な舗装道路、それにひきかえダム湖周辺の道の荒れ方のすさまじさは、共に、過ぎ去った年月の重みを感じさせるものでした。

しかしひとたびダム湖畔に立てば、「あの角を廻れば犀川ダムが見える」そんな思いで歩みを進めた数多くのBergheim行きの思い出、そんなそんな遠い日を一気に呼び戻してくれました。

我々の年代には格別の思い入れのあるBergheimですが、地元にいながら車社会に毒された身には出掛けるには腰の重いのがげんじつであり、このような計画をされた事務局にあらためて感謝します。

また、朽ち果てていた慰心碑の改修作業、Bergheim改修、山行の設営に、多くの現役諸君の御協力をいただいたことにお礼申し上げます。

なかなか眠れず夜半に眺めた満点の星空に感激し、「やっぱり山はいいな」との思いを深くしました。

非常に素晴らしい企画で是非これからも続けることができれば良いと思います。このような企画は、現役諸君とのつながりも大切ですが、

あまり負担を掛けずに、自分達が企画から運営までができれば長続きするのではと考えます。

*25期 辻村 善徳

先日は本当にありがとうございました。おかげ様で久しぶりに学生の頃の気分で山登りができました。

登山は年に2、3回行きますが、扉奥となるとなかなか行くこともできず、大変楽しめました。またそれ以上に、わがワンゲルの1期の方から現役の人達にまで会い、今さらながら金大ワンゲルのふところの深さを実感しました。またこれからこのような機会がありましたら、是非出席したいと思います。

事務局の皆さんもいろいろと御苦勞なことと思いますが、今後共よろしく願います。

*18期 椿川 利弘

台風の影響で「月見の宴」は「やみ夜の宴」となりましたが、それはそれでワンゲルらしくて楽しいひとときでした。

私としては、高三郎登山隊長を命ぜられ、意気込んでいました。しかし、メンバーの同意を得て（いや、メンバーを説得して）中止を決めるや、ビール、ワイン、酒、ウイスキーとチャンポンで飲み、早々とダウンしてしまいました。そして結果的には役員として何もできず、ただ現役に感謝する次第です。

*23期 鳥越 伸博

台風をやや心配しながらでしたが、10年以上振りに訪れたBHは昔の面影そのまま、大変なつかしく昔を思い出しました。参加していただいたOBの方々も一晩だけの短い時間ではありましたが、楽しい一時を過ごしていただけたのではと思います。

また、今回の企画に関しては、実行面において、現役の皆さんに大変協力してもらい、この場を借り、今一度感謝するとともに、OB会の運営にあたって、現役との交流のあり方について、今後ともよりよい形を考えていく必要がある

と再認識させられたような気がします。

OBの皆様には、OB会が末永く続くようにまた何かとご協力の程よろしく願います。

*13期 吉田 穂積

OB会事務局の方、現役の方、どうもありがとうございました。御苦勞様でした。

BHまでの道は草木がおい繁り、昔と随分変わっていた。スベリ易いBH直前の急登を登ると変わらぬBHが建っていた。中はきれいに床張りがしてあったが、囲炉裏がなくなったのはちょっと寂しい気がした。

「月見の宴」は親子以上の年齢差の集まりでワンゲルの歴史を感じる。

大先輩から草創期のエピソードを初めて伺い、またワンゲル唱歌の変遷等を感じたり…と、楽しく過ごしたが、500mlのビールとほんの少々ウイスキーでダウンしてしまい、お開き後は早々にシュラフにもぐり込んでしまった。BHでの酒飲み話はさぞにぎやかだったろうに、残念ながら私は夢の中。翌朝は台風接近の為、早々に下山し、ゆっくり話しはできなかったが、なつかしい顔に出会えただけで良かったと思っている。

*3期 小林 宣泰

月見の宴の企画御苦勞様でした。さすがクラブに女性がいると、同じことをやるにしても、名前が違うことがわかり、この言葉にひかれて出席したところもありました。

今年の夏は都合がつかず高い山へは行けませんでしたので、体力が持つかと思いましたが、どうにかもちこたえ、自信ができました。

「広田君」のような奇人がおれるクラブであって下さい。

*19期 梶 典雅

今回の月見の宴では、チーフということで企画、その他をおおせつかりましたが、現役諸君をはじめ、OB会役員の皆様の御蔭で、何とか無事に終えることができホッとしています。あ

りがとうございました。

ベルクハイムでのOB会は大きな意義のあることは無論ですが、アクセスや人数を考えると、どこかのキャンプ場（例えば医王の里）でやるのもよいかと思います。

*20期 久富 象二

過去を懐かしむのはあまり好きではありませんが、この日ばかりはワンゲルというクラブを選んでよかった（選んだ時はたまたまだった）と、つくづく思いました。久々に痛快に飲み、歌い、語りました。



17期 小島 敬

拝啓 この炎暑、いかがお過ごしでしょうか？
東海ワンゲル会（7月1日）で皆が集まってから、早いものでもう1ヶ月が経ちました。当日は、遠路はるばるお出いただき、本当にありがとうございました。高三郎・ベルクハイム・白山のスライド映写会は大好評で、山への想いをかきたてられた方も多かったようです。

名古屋の酷暑に辛抱できず、早めに夏休みを取り、恒例の家族登山をしてきました。近場の3000m峰で、簡単に行けて混んでいない山、ということで、飛騨側の濁河温泉から御岳山に登りました。御岳山の南部（剣ヶ峰、一ノ池）は

もう一つ、当時クラブを預かった者として、いろいろあったけれど、20期でクラブを潰さなくてよかったとも思いました。

現役の方達には楽しい一夜を催してくれて心からお礼を言いたい。元気で活動して下さい。

*29期 高木 美保

楽しみにしていましたが、台風が近づいて、1才の子供連れだったので、日帰りにしました。懐かしい夜を過ごしたかったです。また、いつか…。

今なお火山活動が盛んで、植物も少なく荒涼としていますが、北部（継子岳、四ノ池）はハイマツや高山植物が多く、まるで別の山のようにです。コマクサの群落やクモマグサをみつけ、半ば諦めていた雷取りの親子にも出会うことができました。

会で撮った写真の発送が大幅に遅れ、申し訳ありません。もう一人のカメラマンの渡辺君から速達でネガを送ってもらったにもかかわらず、こんなに遅れたのは、ひとえにワンゲル時間のなせる業です。

ワンゲルOB・OGのよしみでお許し下さい。
またいつの日か、お会いできるのを楽しみにしております。 8月1日 敬具